

地域運営学校 八王子市立第五中学校



学校だより

■ 発行 八王子市立第五中学校 八王子市明神町4丁目19-1
■ 代表電話 042-(642)-1633

【教育目標】

- ◎ 人・地球との共生 〈より高い人間性をめざす人〉
- 未来社会への知性 〈学び続ける人〉
- 心身共に健康 〈健康で生命を大切にする人〉

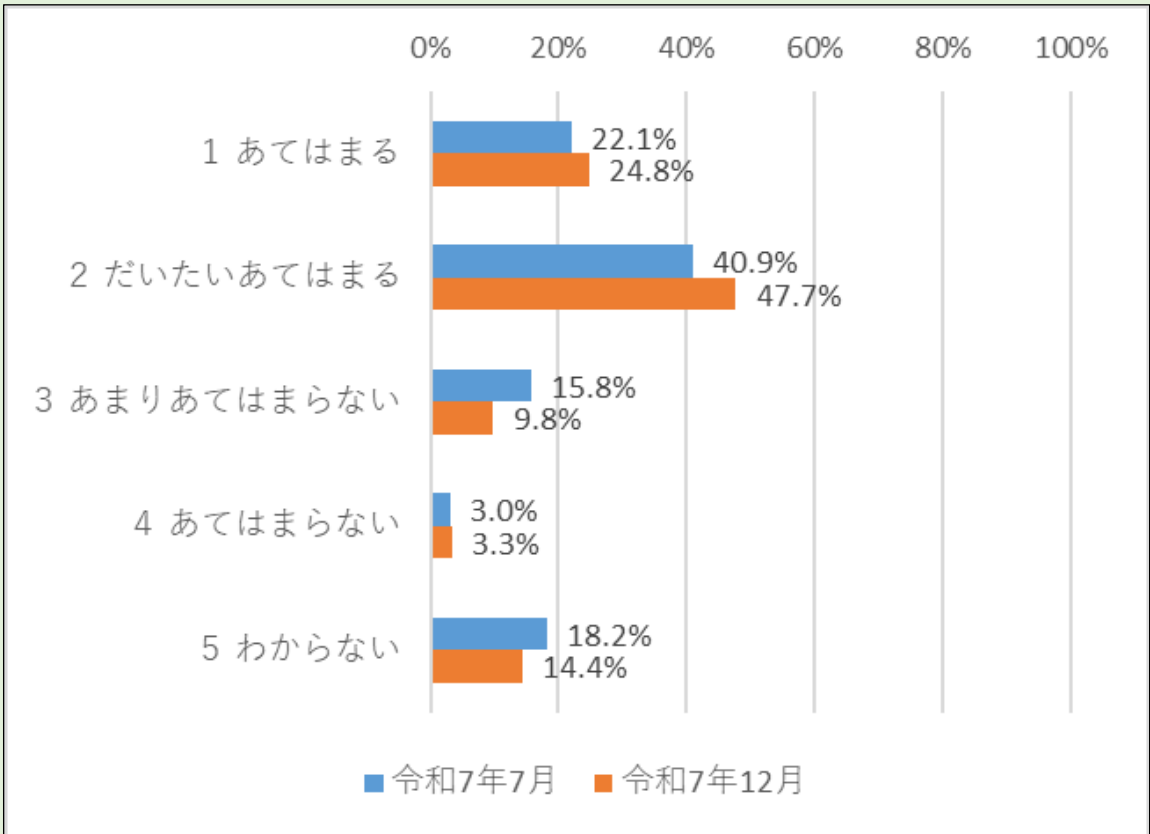
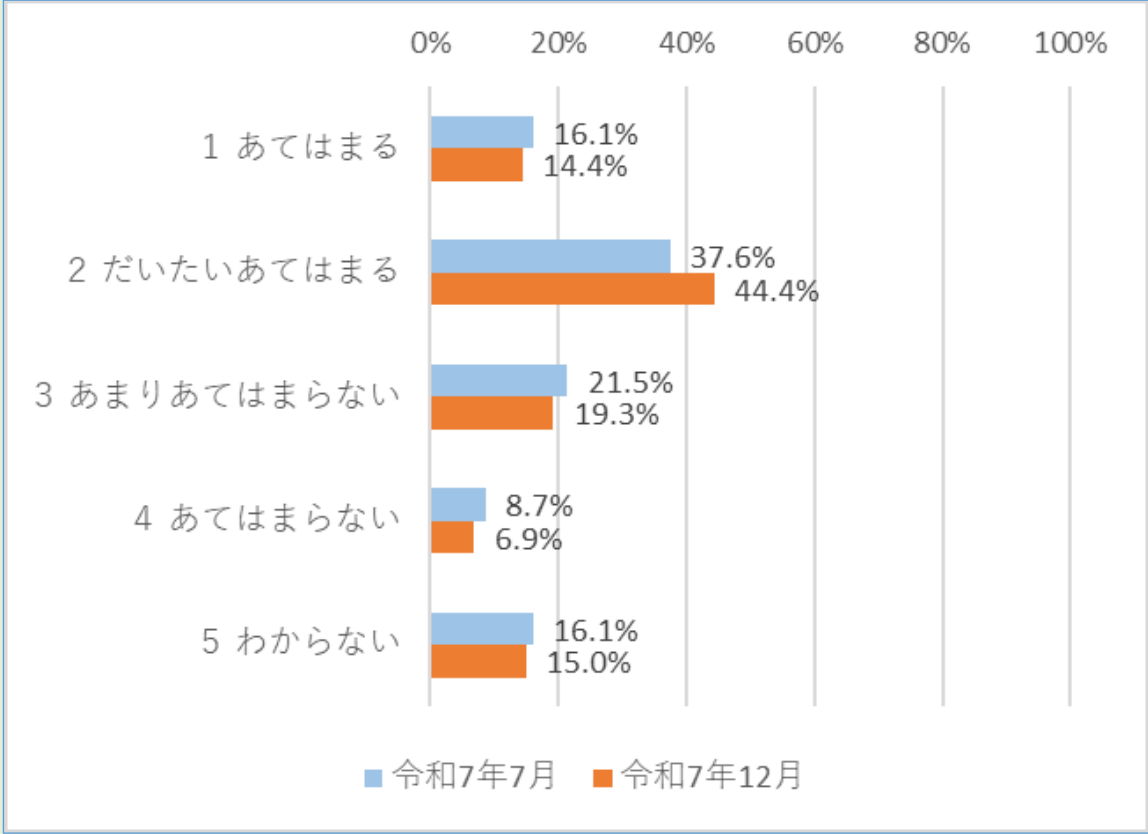
第10号 令和8年2月6日 金曜日



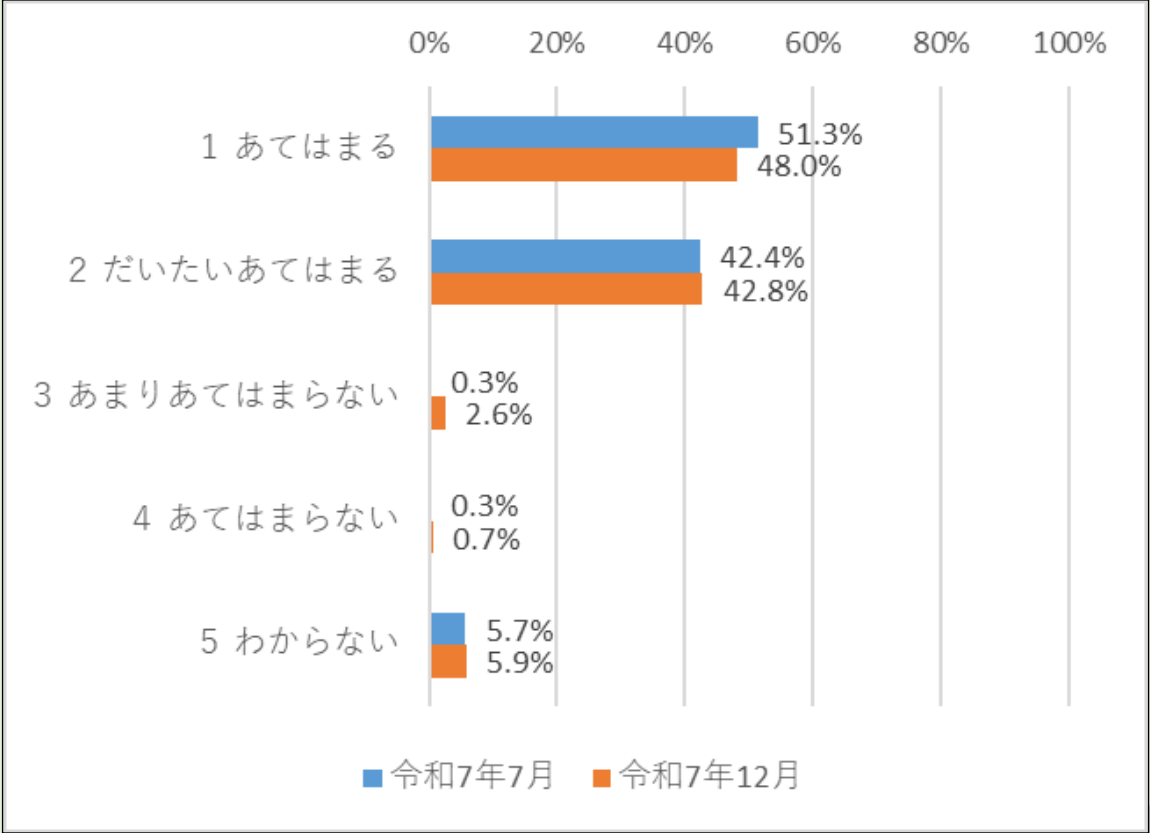
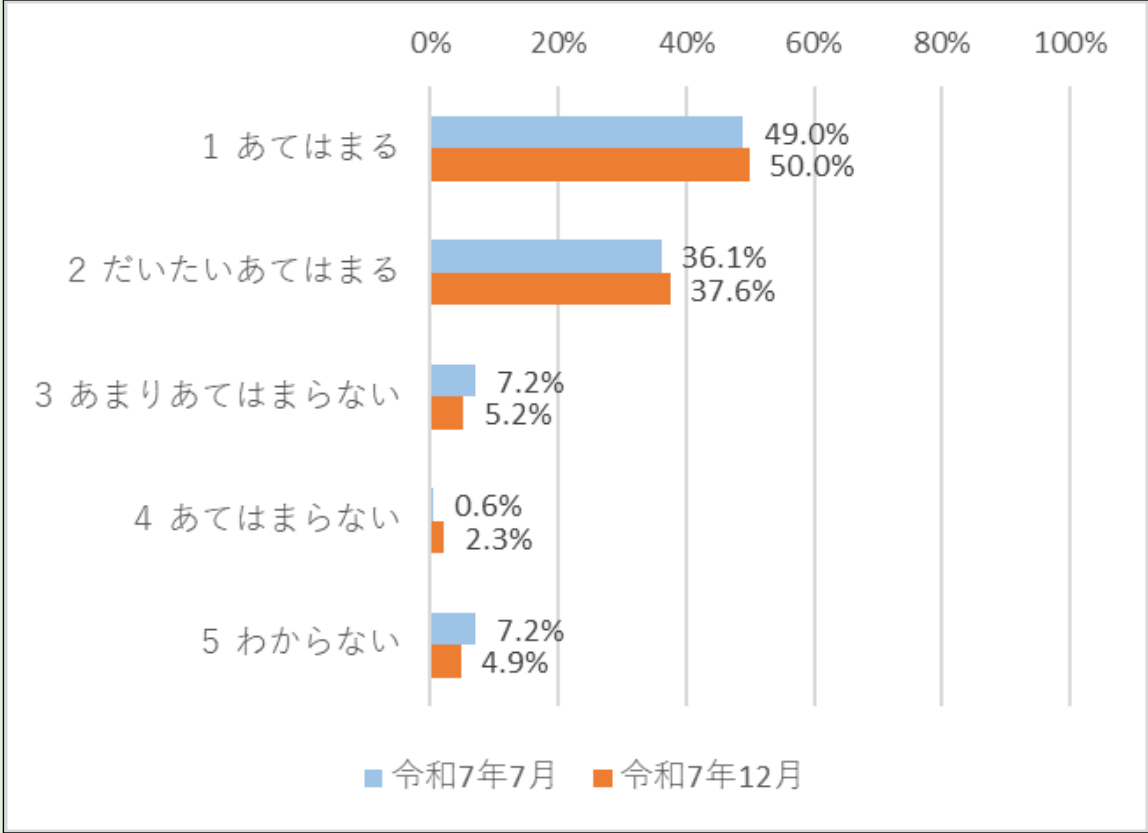
令和7年度第2回学校評価アンケート(保護者対象)まとめ

令和7年12月実施 回答率61.3%（参考:7月実施 回答率66.9%）
※ なお、設問17は設問9と重複しておりましたので、ここでは割愛させていただきました。重複していた2問の回答はほぼ同じでした。

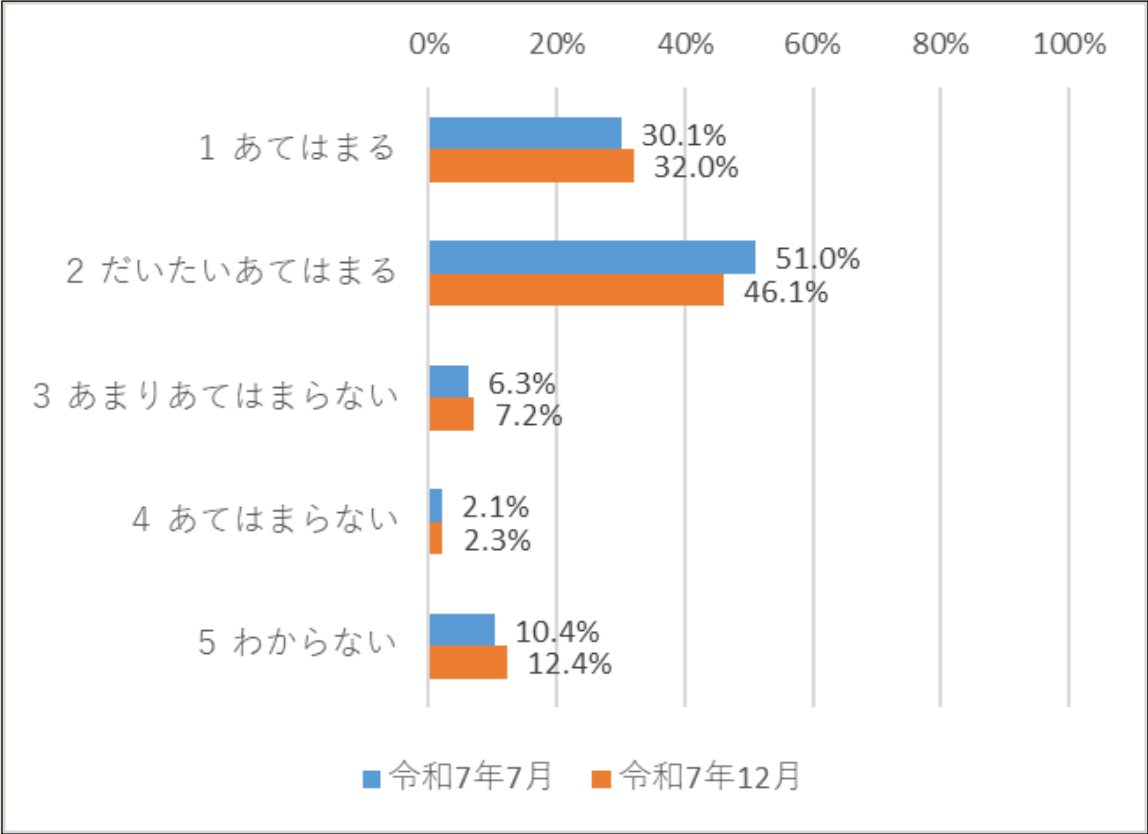
- 1 学校の経営方針の理念『最上位目標である学校教育目標に帰結する教育活動を地域とともに実現する学校』を知っている。
- 2 学校は特色ある取組(「義務教育9年間を見通した小中一貫教育の取組」「学力向上の取組」)を行っている。



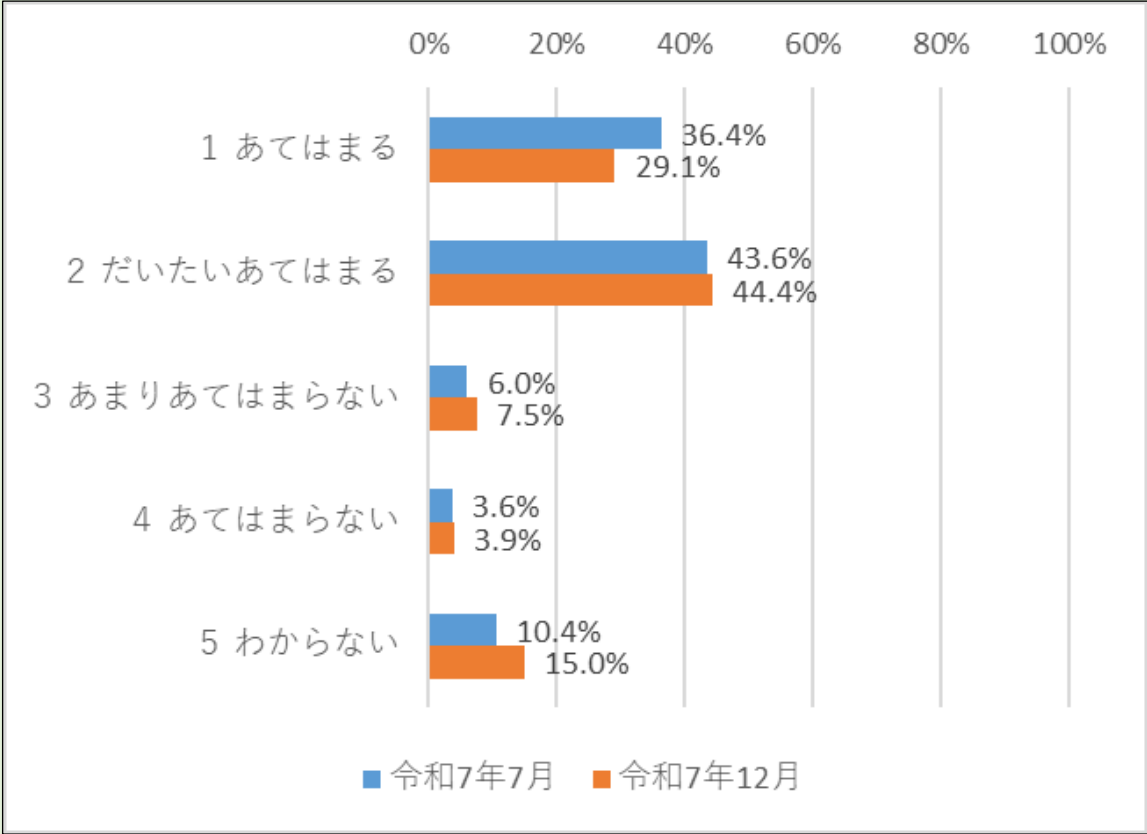
- 3 本校が第一・第四小学校と合同で行う取組(「行事への参加や運営参画」「小中一貫教育の日」)を知っている。
- 4 学校は、子どもたちが安心・安全に過ごせるように、避難訓練などの安全管理に取り組んでいる。



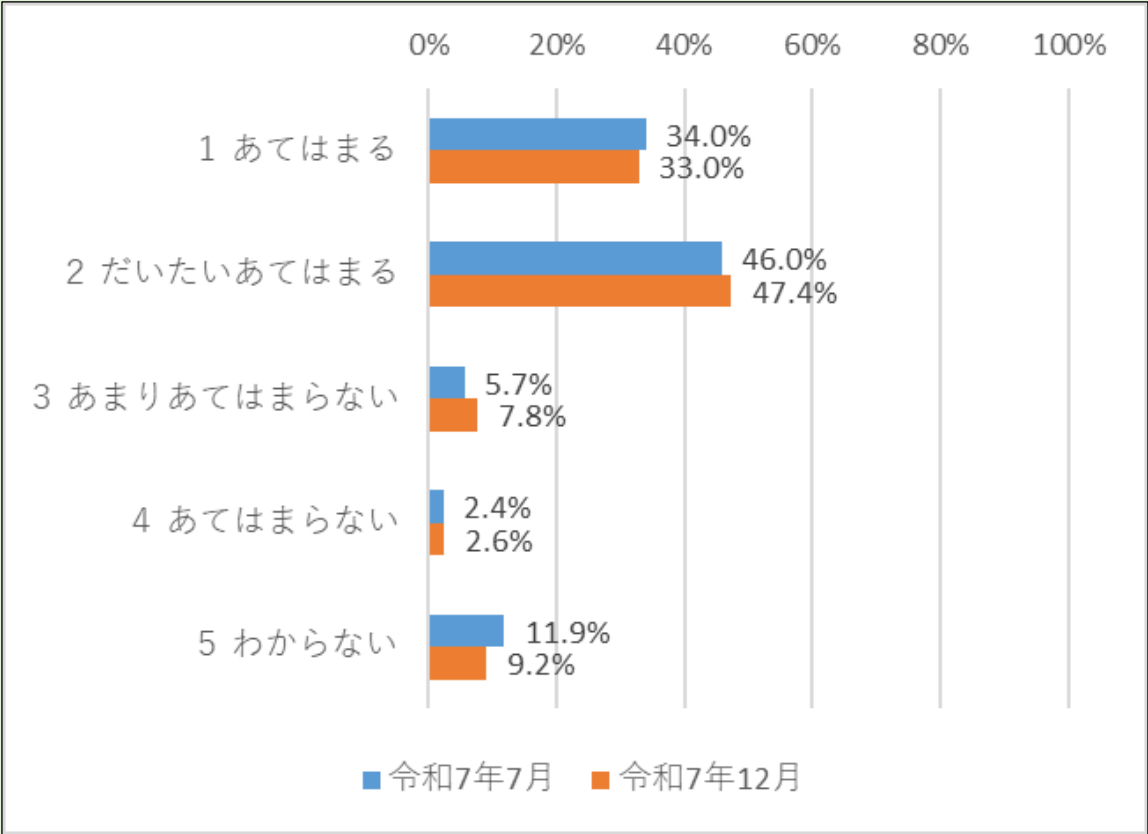
5 学校は、「特別の教科 道徳」を含む教育活動全体を通して、子どもたちが自分の大切さ、他の人の大切さを認め、行動できるような教育をすすめている。



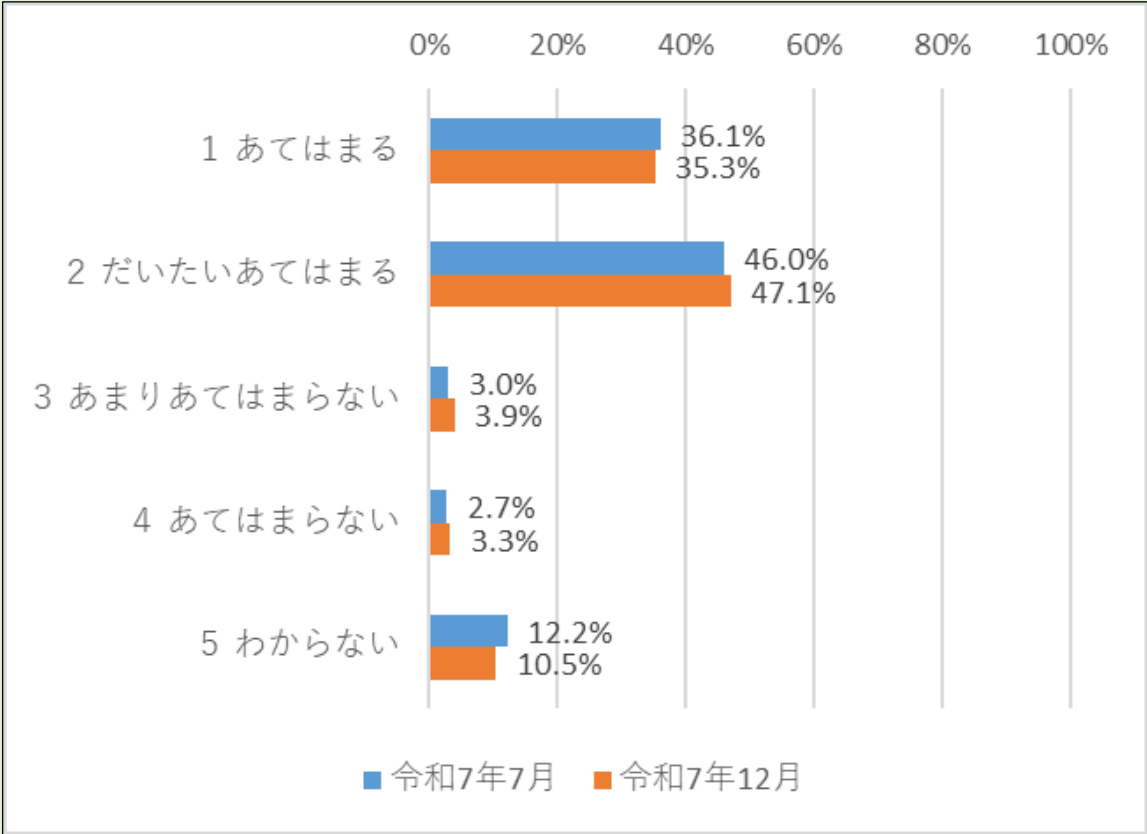
6 学校は、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等、いじめを許さない学校づくりに組織的に取り組んでいる。



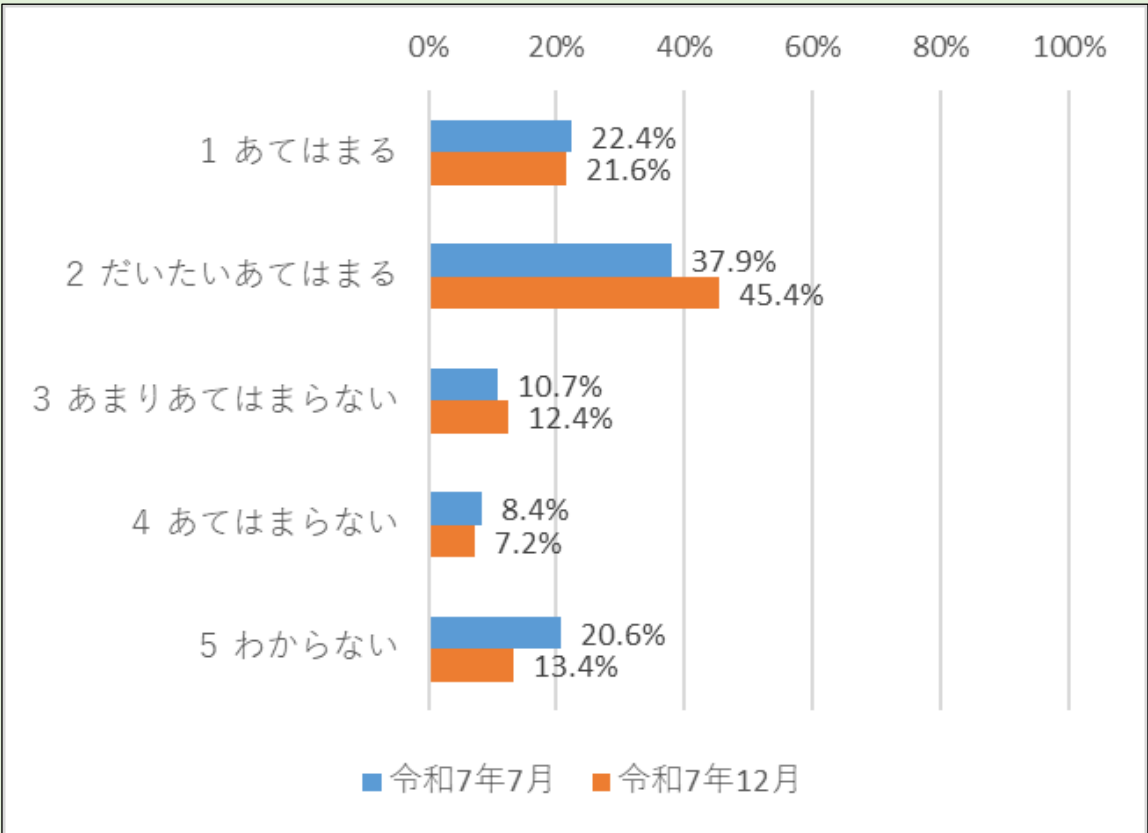
7 子どもの学級では、授業や学校行事に意欲的に取り組むよう、指導が行われている。



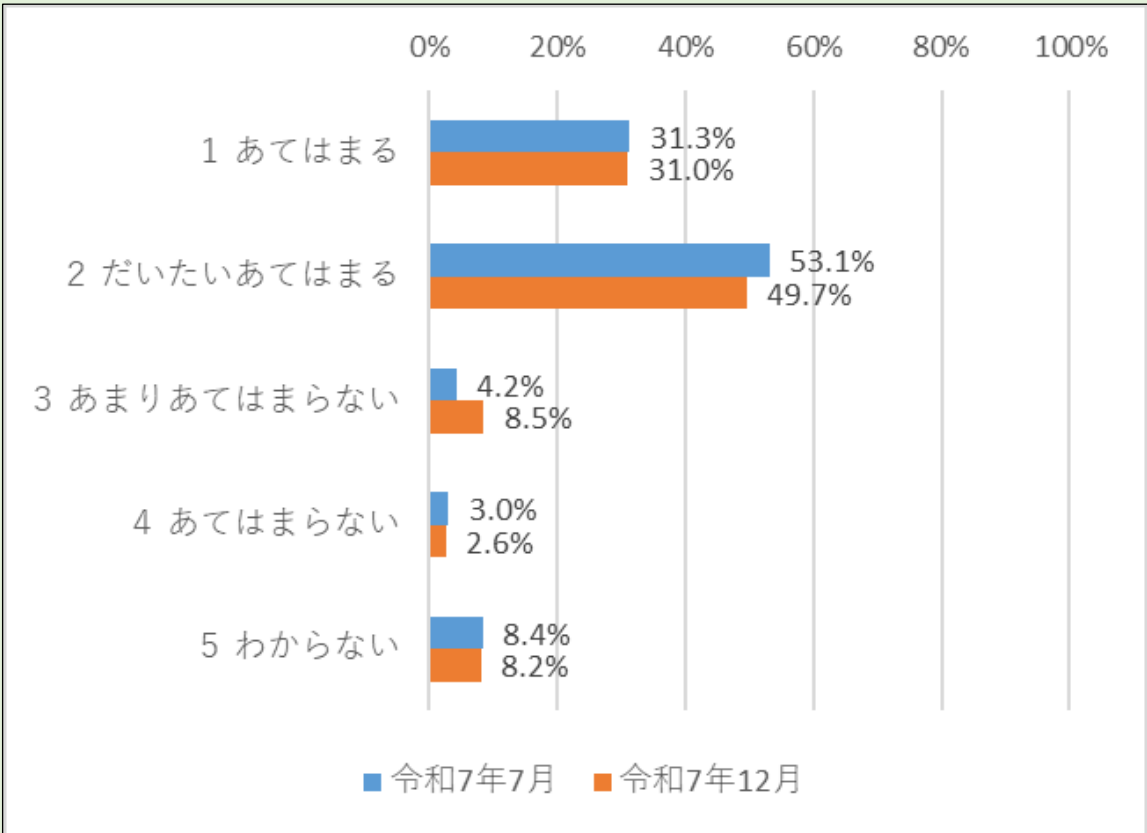
8 学校は、授業において、説明、板書、話し合い活動、ICT機器(1人1台の学習用端末等を含む)の活用などの工夫に取り組んでいる。



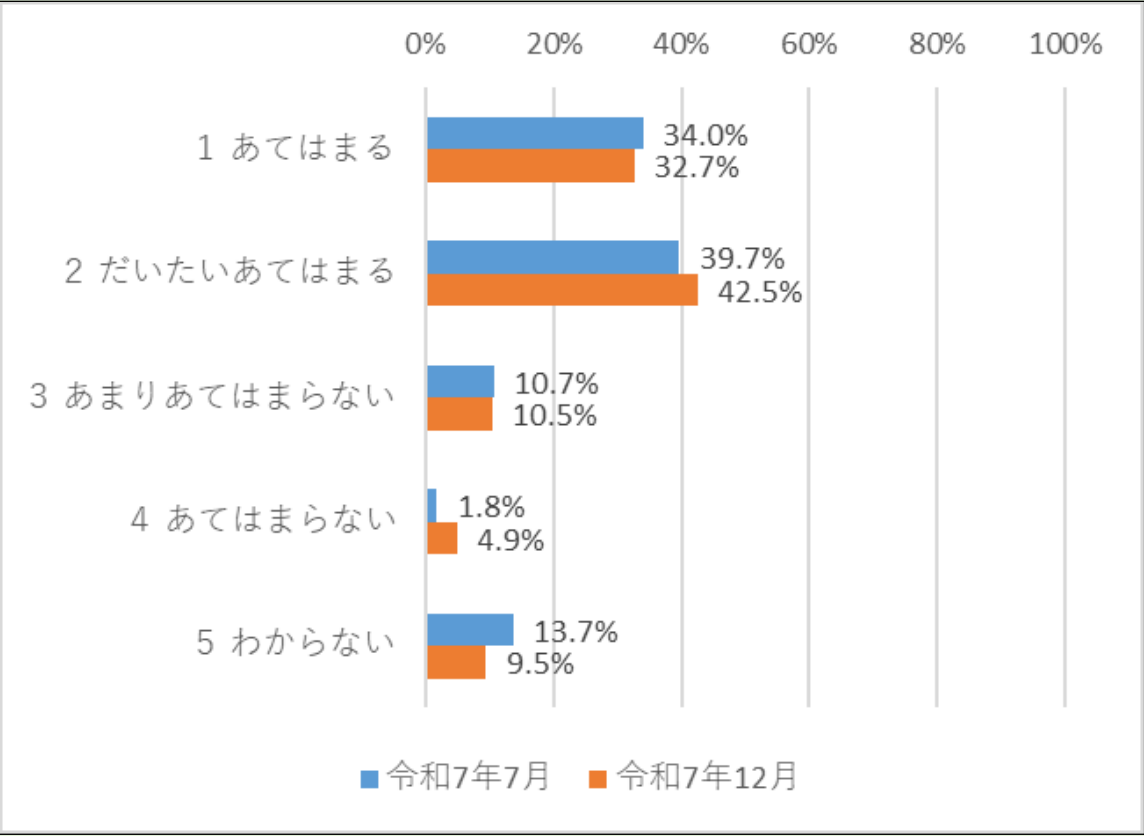
9 学校の学習活動に対する評価は、適切・公平である。



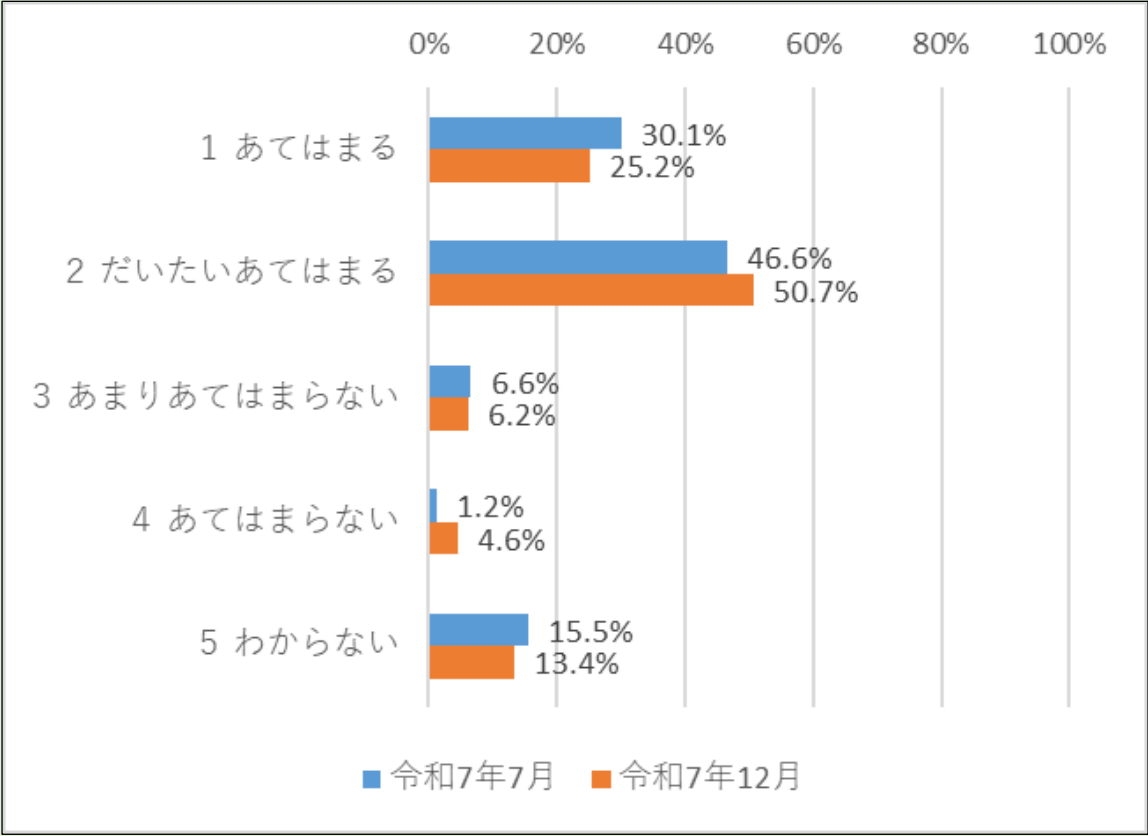
10 学校は、子どもたちがよりよい学校生活を送れるように、生活目標を設定したり、きまりを守ったりする指導を行っている。



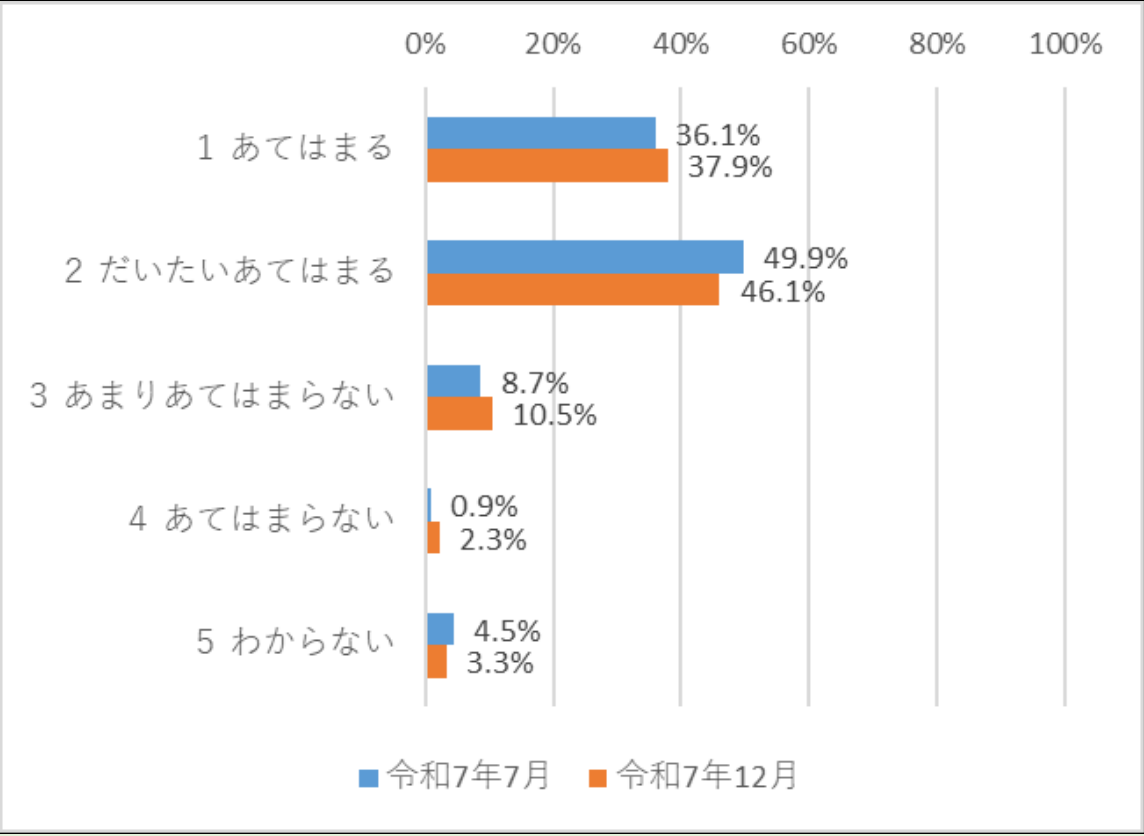
11 学校が、「第五中学校版 キャリア・パスポート」等を用いて、子どもの生き方や将来についてのキャリア教育を行っていることを知っている。



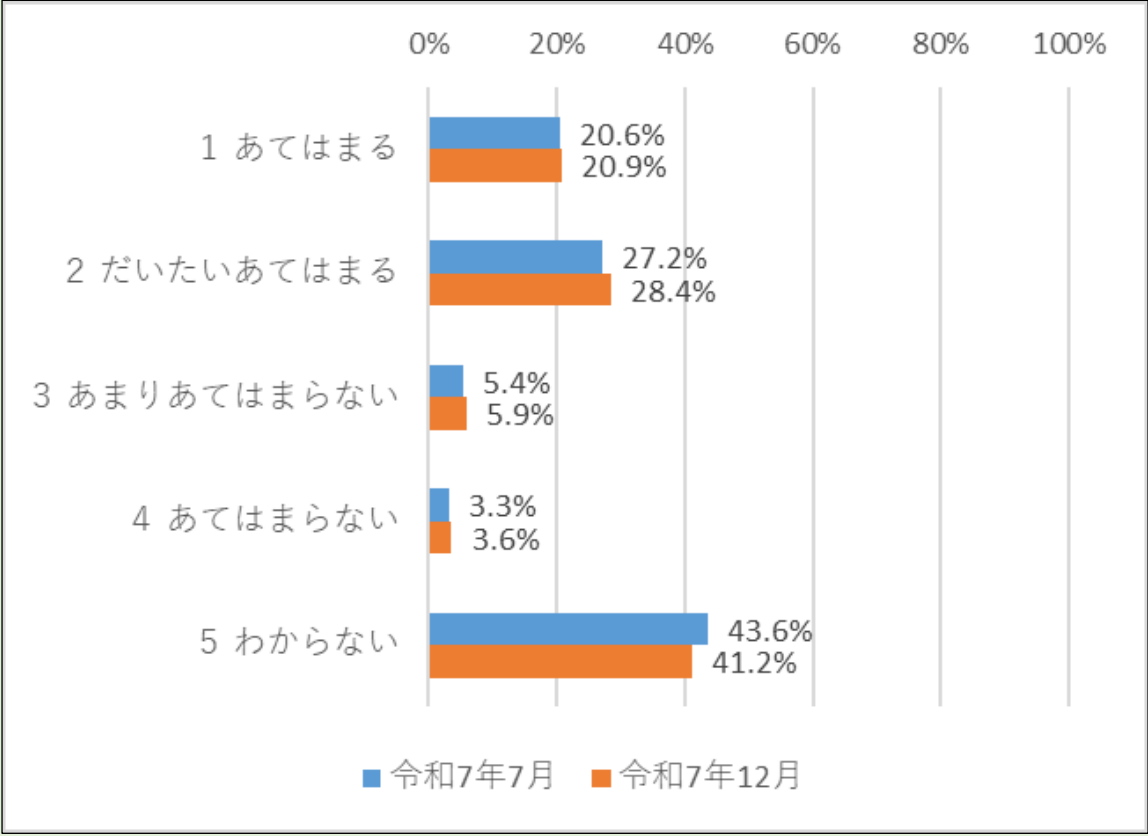
12 学校は、学習環境の整備に取り組んでいる。



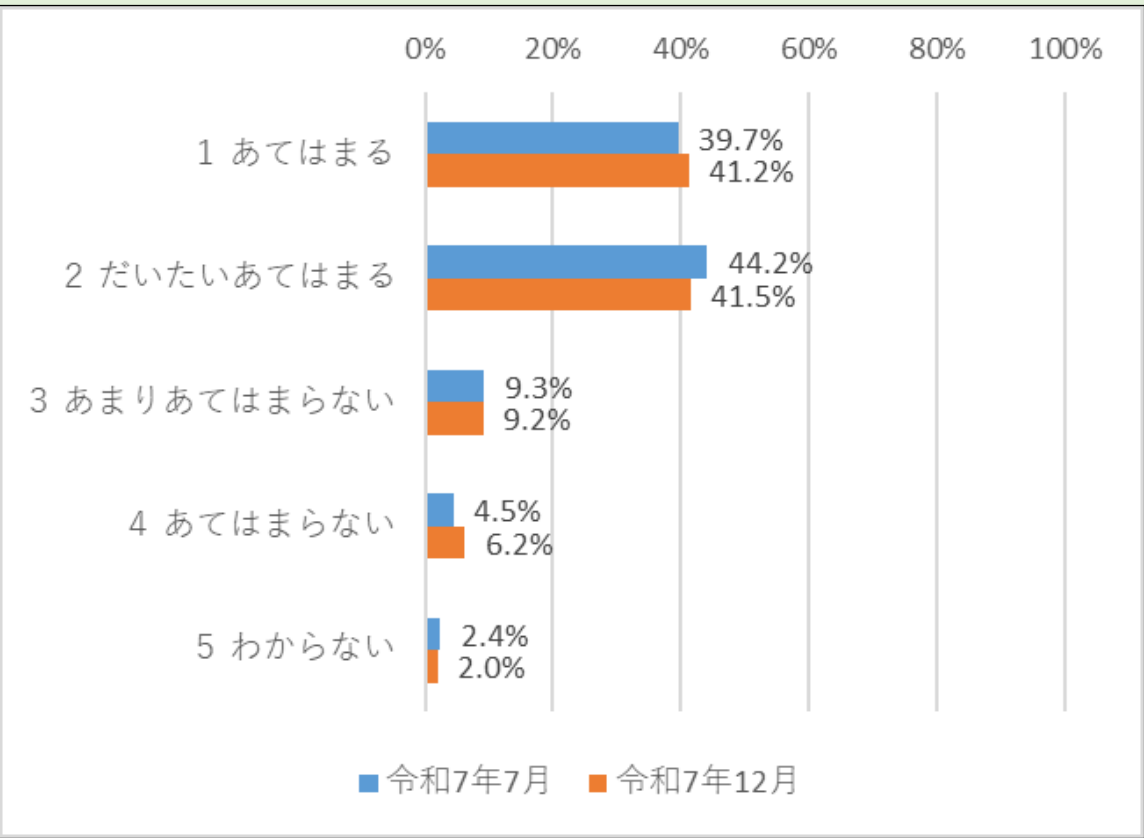
13 学校は、保護者に対して、学校だよりやホームページ等で適切に情報を提供している。



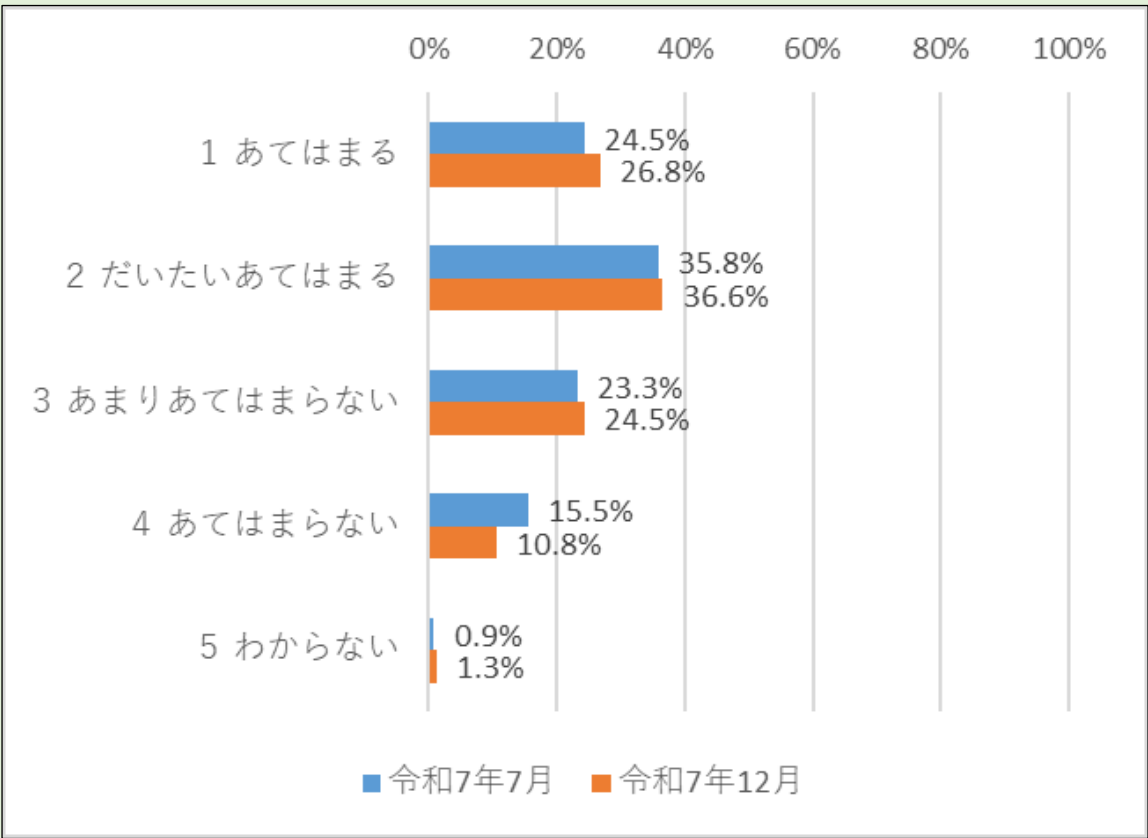
14 学校は、特別支援教育(特別な支援を必要とする子ども)に対する教育に取り組んでいる。



15 子どもは、楽しく学校生活を送っている。



16 子どもは、家庭学習をする習慣ができている。



お忙しい中、第2回学校評価アンケート回答への御協力、感謝申し上げます。保護者の皆様から頂戴したそれぞれの設問の回答で「1 あてはまる」と「2 だいたいあてはまる」を合わせて肯定的意見ととらえ、7月実施アンケートと比較すると、全体としては同じ傾向であると判断できます。以下、そのなかでも変化が目立った設問について言及させていただきます。

まず、肯定的回答が最も増えたのは、小中一貫教育の取組、学力向上の取組についての設問2で、肯定的回答の割合は、7月「63.0%」から12月「72.5%」へと9.5%の上昇が見られました。10月に実施した合唱コンクールで、第一小学校の児童、第四小学校の児童がステージ出演したこと、小学生は本校3年生の合唱を鑑賞したことの取組が、小中一貫教育について本校保護者の皆様の認知を広げたのではないかと考えています。今後も第五中学校グループとして、3校の連携をさらに強め、共通の目標をもつこと、合同一体の行事に取り組むこと、義務教育9年間の見通しをもったキャリア教育を展開していくこと等を推進してまいります。

ほかに肯定的回答の割合が増えたのは、学習活動への評価についての設問9が7月「60.3%」から12月「67.0%」へと6.7%上昇しています。「わからない」の回答が7月「20.6%」から12月「13.4%」へ7.2%減じていて、それがほぼそのまま肯定的割合に移行した結果となっています。7月以降には、評価・評定について全体で説明する機会はありませんでしたので、上昇した分については、各教科担当の学習評価活動に関して生徒、保護者の皆様に認めていただけたものと考えます。結果が向上したことは一定の成果と受け止める一方、否定的回答割合も依然低くありませんので、今後も、各観点で評価規準を明確にし、多様な評価方法を用い、妥当性と信頼性を担保した学習評価をめざしてまいります。

逆に肯定的回答の割合が減ったものとして、いじめ対応に関わる設問6が、7月「80.0%」から12月「73.5%」へ6.5%減少しております。この設問については、前回大きく向上したものでありましたが、今回やや戻る結果となってしまいました。年度の前半は、いじめに関する全体指導の機会も多かったところ、後半になって生徒の理解も進み、そのような機会が減ったこともあろうかと思えます。いじめ対応については、今後も法令や本校の防止基本方針にのっとり、学校いじめ対策委員会を主軸として、未然防止や再発防止に努め、生徒たちにとって安心安全な学校をつくっていけるよう努力してまいります。引き続き、保護者のみなさまの御理解と御協力をお願いいたします。

以下、自由記述意見に対する回答を掲載いたします。

【1】不登校支援について具体的な流れが知りたい。保護者会は毎回出席できないため資料がほしい。

(回答)本市には不登校総合対策「つながるプラン」があり、本校はその趣旨を踏まえ、生徒、保護者に寄り添い、将来の社会的自立に向けた登校支援に努めています。不登校には、それぞれの実態と段階があり、対応の在り方も一様ではありません。2名の登校支援コーディネーターの教員を中心に、登校支援委員会を3週に1回開催し、それぞれの生徒についてどのような支援ができるかを検討しています。本校には、不登校対応巡回教員が1名、スクールカウンセラーが3名で週4日配置されております。また、教育相談主任の教員がおり、校内のみでの対応では難しい場合は、関係機関と連携して対応するようにしています。それらすべての人的資源を結集して、「チーム学校」としてそれぞれの生徒に応じた支援を行っています。

【2】いつも大変お世話になっております。三者面談中に部活動への参加が再登校になりますが、面談の生徒のように、自習をしながら待機させていただけるととても助かります。

(回答)三者面談中の部活動再登校の生徒を待機させるとなると、相当広い待機場所が必要となり、現状そのような部屋がありません。また大人数になってしまい、教員による管理の必要性も生じてきます。よって、面談の生徒のみ待機可とさせていただいております。御理解ください。

【3】クロームブックが壊れたり、家のネット環境が悪かったりと、使えないことが多々ありました。先生に伝えても代替機がなく、友達に借りるように言われるそうですが、それでは対応できないこともあります。(友達が使用している間は使えませんし、急いでやらないと焦るそうです。)宿題だけでも紙使用できないのでしょうか。クロームブックが使えないことで勉強が進まなかったり、評価が下がってしまうことをとても心配しています。

(回答)学習用端末のリース期間末期であった今年度はこのようなケースが多く発生してしまい、申し訳なく思っています。代替機も市や修理業者から割り当てられる数しかありませんので、対応が限界を超えてしまいました。学習用端末が故障等で使えないことで不利を生じさせることのないように徹底してまいりました。実際、故障の多かった夏休みの課題について、端末を用いるものはなしということにさせていただきました。なお、現在の端末は令和8年2月9日に入替となりますので、今後しばらくは故障の発生は少なくなることが予想できます。

【4】成績が厳しい。校長先生が3の割合は他より多いと言っていたが、成績を気にする子、保護者は3がほしいわけではない。4と5の割合も提示できるようになってほしい。(かなり低いので)

(回答)令和7年4月11日に開催した評価・評定説明会において、副校長より「令和6年度卒業生の全教科評定の状況」として、「5」「4」を与えた割合が28.6%、「3」を与えた割合が50.6%、「2」「1」を与えた割合が20.8%であったことを説明させていただいております。なお、「2」「1」を与えた割合には、不登校等で評定不能の生徒の割合も含まれています。各種学力調査によると、本校は全国平均や市平均よりやや高く、都平均と同等という結果が毎回得られますので、正規分布よりもやや上に寄った評定分布は適正だと判断できるということも説明させていただきました。この実態について、「成績が厳しい」「かなり低い」との御指摘ですが、何を根拠にされているのかお示しいただいたうえで御意見いただけますと、学校としてもよりの確な御回答ができるのではないかと思います。

【5】①合唱コンクールの採点ミスの件ですが、3年前の数学評定ミスの経験が全く活かされていないと感じました。どちらも計算式のミスと説明がありましたが、ダブルチェック、トリプルチェックは実施されていないのでしょうか？ 決して複雑な計算式ではないと思います。学校側のミス、怠慢で再び生徒が悲しい思いをしないよう、切にお願い申し上げます。

②授業で未指導の(すべてのクラスが学習していない)範囲を定期考査で出題するのはなぜですか？ 正しい評定がつけられないのでは？

(回答)①合唱コンクールの審査結果の訂正につきましては、御指摘の通りです。生徒たちに、学校のミスにより本来味わうことのなかった落胆の気持ちを与えてしまったことに対して、責任の重大さを痛感しているところでございます。今後、同様のミスが起こらぬよう、再発防止に精一杯取り組ませていただきます。

②未指導の学習範囲が定期考査に出題されたという御指摘ですが、生徒たちの声を受け、その当時、調査をさせていただきました。まずは該当する教員の週ごとの指導計画と指導実績を確認したところ、その内容を学習した記録があり、校長がその当時に決裁していました。また、念のため疑問が出た学級より無作為に生徒を抽出し、聞き取りとノート確認をしたところ、確かに授業で扱った内容であったことを生徒たちが認めております。その旨を、各クラスで担任が説明し、そのうえで学年全体が集まった機会には学年主任から説明されたという報告を受けております。万が一、別件についての御指摘であった場合、御連絡いただけると幸いです。

【6】合唱コンクールの伴奏について。伴奏の立候補がいなかった場合、録音等の音源を流すことはできないのでしょうか。娘やクラスの子たちは最後まで前向きに練習に取り組んでいたようですが、アカペラは難易度が上がると思いますし、曲の印象などもだいぶ違うのでは…と感じました。伴奏は審査の対象にならないという話なので、ご検討いただければ幸いです。

(回答)例えばカラピアノなどの音源を流してそれに合わせて歌うということはいずれのクラスでも案としてあったということです。生徒たちが話し合う過程では、様々な困難や問題点が生じるであろうことも上がったといえます。それでも、無伴奏での発表を生徒たちが決定しました。「最後まで前向きに取り組んだ」とのことですが、お子様のその言葉が、無伴奏に決定する段階から発表本番まで生徒たちが主体的に取り組んだということは何よりも表しているのではないのでしょうか。前向きな御提案を頂戴してありがたいところではありますが、学校としては、この件は行事等で生徒が主体的に取り組めた今年度有数の例であると考えております。

ホームページがスマートフォンで見やすくなっています。

学校だよりは令和7年度からデジタル配信となりました。
学校ホームページからも見られますので御活用ください。

<https://hachioji-school.ed.jp/dai5j/>

※ 携帯電話・スマートフォンからは二次元コードからの閲覧が便利です。



学校ホームページの
二次元コード